

# 農業生産環境の変化に適応した持続可能な農業栽培技術の開発

【令和5年度予算概算決定額 69 (61) 百万円】

## <対策のポイント>

国際農業研究機関への資金拠出により、途上国の農家が実施可能で、農業生産環境の変化に適応した持続可能な農業栽培技術を開発し、持続可能な食料システムの構築に貢献します。また、研究成果を国際会議等の場で周知し、国際社会における我が国のプレゼンスの向上を図ります。

## <政策目標>

- 生物的硝化抑制 (BNI) 能を活用し、温室効果ガス (GHG) 排出の2割削減が可能なコムギ5品種の開発 [令和5年度まで]
- 耐塩性・耐干性に優れたイネ2品種の開発 [令和8年度まで]
- GHG排出を3割削減する放牧管理システム1件及び炭素クレジット獲得のためのプロトコル1件の開発 [令和9年度まで]



## <事業の内容>

### 1. 高度生物的硝化抑制 (BNI) コムギによる窒素施肥量削減と環境保全 17 (17) 百万円

- 高BNIコムギシステムを利用した新品種を開発するとともに、BNI能に関する新たな遺伝子を特定し、施肥量・GHG排出量を大きく削減できる可能性をもつ集積システムを作出します。  
(拠出先：国際とうもろこし・小麦改良センター (CIMMYT))

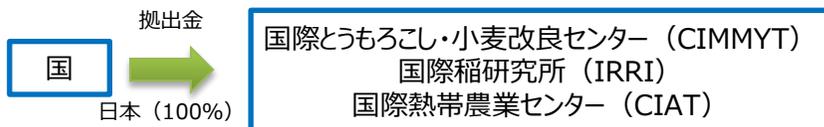
### 2. 気候変動に対応するための耐塩性・耐干性イネの開発 23 (24) 百万円

- 気候変動等により、増加している塩害等に対応するため、IRRIが保有する遺伝資源を活用し、耐塩性・耐干性に優れたイネの品種を開発します。  
(拠出先：国際稲研究所 (IRRI))

### 3. 不良環境地での「牧畜業の脱炭素経営」を可能にする技術の開発 29 (-) 百万円

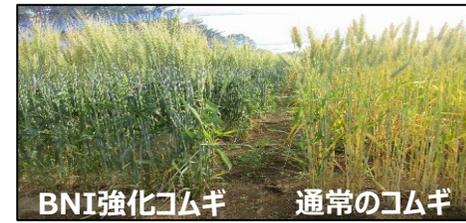
- 不良環境地での牧畜業の生産性・持続性の向上とGHG排出削減を両立する放牧管理システムを構築します。また、そのGHG排出削減効果を見える化し、炭素クレジットを獲得するためのプロトコルを開発します。  
(拠出先：国際熱帯農業センター (CIAT))

## <事業の流れ>



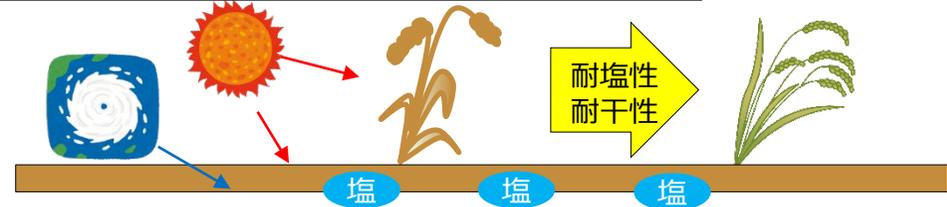
## <事業イメージ>

### 1. 高度生物的硝化抑制 (BNI) コムギによる窒素施肥量削減と環境保全



- BNI能の強化により、
- 半分程度の窒素施肥量でも収量を維持
  - 窒素施肥由来のGHG排出量を削減

### 2. 気候変動に対応するための耐塩性・耐干性イネの開発



### 3. 不良環境地での「牧畜業の脱炭素経営」を可能にする技術の開発



【お問い合わせ先】 (1) 輸出・国際局新興地域グループ (03-3502-5913)  
(2) 農林水産技術会議事務局国際研究官室 (03-3502-7466)